

# 1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	矢掛町立矢掛小学校	実践者名	松山 裕子
教科等	社会科	学年	第5学年
		Stage	Stage 3
育成したい 資質・能力	自分たちで学習計画を立て、必要に応じて ICT 機器を活用しながら、学習を深める力。		
単元・内容等	自動車工業のさかんな地域 ～今の車づくりどうなっている?!～		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	各教科等で、日常的に活用している。		

## 活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する

(1) 「スクールタクト」を活用して自身が考える「理想的な車」をデザインする。

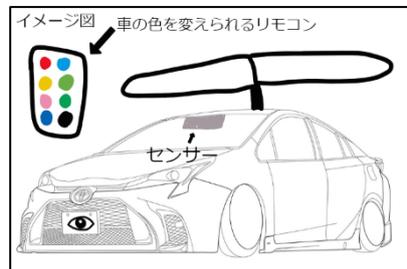
- ・車の特長
- ・イメージ図 など

### 車の特長

- ・自動運転
- ・事故をしたときに死なない（センサーが危険を察知する,事故をしたときに、車全体に大きなクッションができる）
- ・大きいテレビ付き
- ・スイッチを押したら、ベッドが出てくる
- ・空を飛べる
- ・車の色が変えられる

### 車の特長

- ・自動運転
- ・普通の車と機能は同じ
- ・車の形じゃないみたいな形
- ・小さくて細い、早くて、安いから便利
- ・大きさの注文ができる
- ・駐車するときも、小さいから困らない



(2) 考えた車の特長を交流し合い、現在社会で乗られている車との共通点・相違点などから学習課題を設定する。

### 【学習課題の例】

- ・車はどのようにして作られているのか？（組み立て工場）
- ・部品はどこから集められているのか？（関連工場）
- ・作られた車はどのように売られているのか？（輸出・材料の輸入・加工貿易）
- ・車の会社はどんなことを目指して車は作られているのか？（環境・安全）

(3) 考えた学習課題の解決に向け、タブレットなどを活用しながら調べ、わかったことを交流する。

(4) 学習したことを生かし、安全や環境へも配慮された「未来に求められる車」について考えをまとめる。

実践者の手ごたえ	児童生徒の振り返りや反応等
導入時に自分の理想の車を描き、そこから学習課題を設定していくことで、学習の流れを児童自身が把握できやすかったのではないかと感じる。また、自分たちの疑問をもとに学習を進めていくため、活動にも意欲的に取り組んでいると感じる。次は ICT を使って得た情報の活用の仕方についても考えていきたい。	(児童の感想) 「自分たちが考える理想の車と、現実的に作られている車には多くの違いがあり、面白いと感じた。」「私たちは乗り心地にばかり重点を置いていたが、車を作る人たちはそれだけでなく、安全や環境への配慮についても考えていることがよく分かった。」